

福井厚生病院における勤務医負担軽減計画

目標
 当院では、従来より、勤務医の勤務状況を把握し、改善すべき点については、各診療科の責任者への指導により対応してきたが、勤務医の負担軽減を進めるためには、コメディカルを含めた各診療部の協力体制が必要であることから、平成20年度より、医政局の役割分担通知に基づき、医師が担っていた業務等の他職種への分担を進めており、今回も、[医師には医師本来の業務に専念してもらうことを目的とし]これを推し進めることを目標とする。

分野	現状	2021年までの目標	目標達成のために必要な手順
医師事務作業補助業務の確立	医師が本来の診察業務に専念できていない。また、医師が医師事務作業補助者を活用できていない。	医師に対して、医師事務作業補助者が可能な業務を伝える。 アンケートなどを通じて、これまで医師が行ってきた雑務のうち、対応可能なものは医師事務作業補助者が実施できることを徹底し、医師事務作業補助業務の確立、拡大(病院内での位置づけ及び外来での業務内容の拡大)を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ■定期診察の対応(事前準備)や診察補助 内科総合外来の代行入力を毎日に拡大。ストレスケア科、循環器科外来の曜日毎の定期的な代行入力、消化器・一般外科 ■整形外科診察への対応 問診票の入力、入院予約、リハビリ依頼書の更新、普通診断書作成などを行なう。 ■入院診療計画書の作成 入院後3日以内での作成を目指し、医師と(下書きを含めて)協調していく。 ■退院時要約の作成 全医師について原則退院日の翌日に作成(下書き及び承認)を実現させる。 ■入院証明書等書類全般の作成 入院証明書等書類全般について下書きを作成し、医師に内容の確認を依頼する。 H28.5～自賠責保険診断書下書きの作成開始。 ■透析患者さんへの定期検査の事前入力 (H26.1より電子カルテへの事前入力補助を開始している) ■診療情報提供書 医師にアンケートを実施し、H28.5より(紹介受診事前準備として)紹介状の他院での投薬内容の事前入力を行っている。 ■ワクチン接種情報のカルテ内入力 (肺炎球菌H26.11～インフルエンザH27.10～)
各診療科ごとの取り組みの促進	各職種の業務分担が不明瞭である	マニュアルによる診療の確立と見直し	術前説明・検査説明・退院後の調整など、手術・入院に関するマネジメントの標準化
	専門医・専門医療職の育成推進が進まない	予算管理の実施し、学会や研修の機会を提供・支援する	医師はもちろん、看護師・コメディカル・事務職等多職種による積極的な学会や研修参加を支援する。
		新専門医制度への積極的参加	福井大学附属病院、福井赤十字病院との連携を図る。
医師の確保	若手医師が不足し、ベテランの常勤医が疲弊している	卒後研修医の積極的な受け入れを行う	福井大学医学部附属病院を始め、金沢大学医学部附属病院からの受け入れを行なう。
		整形外科・外科・消化器科・神経内科・精神科・放射線科をはじめとする常勤医師、及び若手医師の確保	実績のある医師紹介会社「民間医局」に、神経内科を追加し、病院情報の一部修正を行なう
		組織改編によるリクルート活動の強化	非常勤医変更にともなう、院内掲示及び広報活動の実施
		女性医師のライフスタイルにあわせた柔軟な対応	育児短時間勤務の広報および活用促進、短時間勤務による常勤女性医師の雇用、ニーズを見ながら、運用方法(運用部署、定員枠の見直し)について検討。
		地域の保育園に入園したい職員の子供を対象に、院内保育園を設置。	
		午前中の外来診療(総合外来)を時間通りに終える	総合外来の体制を見直し改善する。
		一部の医師に業務が偏らないよう、公平性を担保する	当直体制を見直し改善する。
病棟での薬剤師の活動が限られている	薬剤師の病棟常駐時間を増やす。	採用活動を活発に行い、常勤薬剤師を獲得する。	

分野	現状	2021年までの目標	目標達成のために必要な手順
薬剤管理			子育て中の薬剤師もいるが現状を維持できるよう業務調整する。
	手術予定患者の持参薬の確認・管理	予定とおり手術が行えるように、患者に服薬の中止や説明を行なう。	外来予定手術患者への抗凝固薬、抗血小板薬、凝固に影響するサブリなど服薬面談で確認。
	薬用量、使用法、相互作用など処方内容の確認	薬用量、使用法、相互作用など処方内容の確認を行なう。	院外処方についての疑義照会で発生した処方の修正作業を医師との合意の下、薬剤師のダブルチェックにて実施。入院内服・注射オーダーに関しても行っている。
	医師への情報提供	副作用情報等の医薬品の情報の集約と医師への情報提供を行なう。	医薬品医療機器総合機構(PDMA)からの医薬品安全性情報の連絡を、メール受信後速やかに行うよう徹底する。
	硬膜外麻酔薬の定速バルーン容器への薬剤調製。	手術前の硬膜外麻酔薬の調製を依頼あるものは全例行っていく。	一般的な点滴と違い、特殊な容器への調製なのでこれの調製手順を作り、調製時間を確保していく。
服薬指導	服薬指導は薬剤師が実施している		
医療機器管理	医療機器中央管理室の移動に伴い、管理方法の見直しが必要。院内スタッフが機器貸出状況がわかるよう取り組みが必要。	院内の機器管理状況がスタッフが把握できるよう環境を整える。	ME全体が把握できる管理・運用方法に見直す。機器管理システム導入の検討。機器の勉強会を行い、知識向上に努める。
検査手順の説明の実施	一人当たりの外来診察時間が限られており、検査結果の説明に十分な時間がかけられない。	検査説明・相談のできる検査技師育成講習会を受講し、体制を整える。	検査説明がどこまで可能であるか協議し、医師からも利用を勧めてもらう。利用者が増えるよう、ポスター掲示など広報活動を行う。
検査業務	糖尿病教育入院やNST・ICT・褥瘡回診などにおける診療支援業務が不十分である。	NST・ICT・褥瘡回診などにおける診療支援業務の充実を図る。	NST・ICT・褥瘡などのチームにおいて、検査技師が行う業務を再確認し、充実させる。
栄養業務	一般食の変更は管理栄養士が行い、主治医が確認している。また、治療食に関しては医師に情報提供を行っている。	現状の継続。	病態を把握し、個々に合った栄養管理ができる管理栄養士の育成。
	管理栄養士は、入院患者の栄養管理として、[病棟担当制]としており、1～2病棟を担当しており、適切な栄養療法を実施するように努めている。	退院後を見据えてのかかりつけ医やケアマネへの情報提供を行う。	低栄養患者への継続した栄養療法が実施できるような連携体制をとる。患者情報提供用紙作成の継続・多職種間での共通認識を持ち、情報交換を行う。また、退院カンファレンスに参加し退院後の支援につなげる。
勤務環境改善	メンタルヘルス窓口を担当している職員が異動・退職となった	メンタルヘルス窓口の恒常的な運営	臨床心理士の積極的採用を通じて、職場のメンタルヘルス相談窓口の恒常的な運営を行なう。
	メンタルヘルス窓口は恒常的に心理士が担当しており、必要時に労働安全衛生委員会で状況を報告している。	メンタルヘルス窓口としての役割と産業医や労働安全衛生委員会との連携体制を整える。	労働安全衛生委員会へ継続的に参加し、必要時に状況報告、窓口運営についての意見交換をしていく。
心理業務	医師の指示の下、心理検査や心理カウンセリングなどの心理業務は心理士が実施している。	現状の継続。	医師と連携する機会を作る。継続的に研修会などに参加し、知識向上に努める。
地域の医療機関との連携	退院支援業務の更なる実施	退院支援業務の強化	退院支援業務の強化のため、(退院支援加算1を通して)看護師、社会福祉士の配置及び業務の継続。
	医療連携センターの恒常的な運営を行うために目標指数を設定しているが、逆紹介について検証できていない	1.医療連携センター相談件数(前方・後方支援)のUP及び逆紹介率の算出を行う 2.病院との連携を蜜に行い、紹介率を上げていく	広報担当者による定期的な病院・医院への訪問と情報提供を行う。
	高齢者の入院期間が長期化することがある。	1.入院期間の長期化を防ぐ 2.第1医師会福井安心ネット終了しているが、相談を継続し対応していく。	既に介護サービスを利用している場合は、CMと連携し、退院後の適切なサービスの提供に努める。介護保険サービス未使用者に関しては導入への支援を行う。
		医師の書類が遅延無い様に支援する	連携医へのすみやかな診療情報提供書の送付。
		福井メディカルネットの活用	福井大学医学部附属病院の医師と連携した、スムーズな活用を試みる。
入院の説明の実	入院の説明は医療連携センターにて実施している		

分野	現状	2021年までの目標	目標達成のために必要な手順
施			
初診時の予診の実施	初診時の予診は医事課職員が実施している		
静脈採血等の実施	静脈採血等は看護師、臨床検査技師が実施している		